

令和7年度 徳島市立高等学校 第2回学校運営協議会 協議等の概要

1 日 時 令和8年2月19日(木) 午後1時30分から午後3時20分まで

2 場 所 徳島市立高等学校 第1会議室

3 協 議

(1) 本校の現状について

事務局より「学校評価アンケート」「生徒授業自己評価アンケート」について説明の後、資料2『令和7年度 学校評価 総括評価表』に基づき、本校教育活動の概要を次のとおり説明。その後、学校評価の各項目や本校運営などについて協議、質疑応答を行った。

1 学校運営体制の充実

コンプライアンス啓発や教員研修は概ね計画どおり実施。一方、「学問・スポーツ・芸術の3本柱」の項目は目標値に僅かに届かず、次年度以降の課題となる。

2 人権教育の推進

全学年で人権HR・公開授業を実施。生徒主体の「市高人権新聞」の発行、市高祭での人権展は来場225名と目標値を超えるなど活発に活動を行った。

3 学習指導の充実

授業時数は1028時間を確保、授業満足度は93.7%となっている。一方で「1日3時間以上の学習」の達成と図書館の貸出冊数が課題となっている。

4 進路指導の充実

定期的に進路検討会を実施、2者・3者面談は随時行っている。またIRPの満足度は86.2%で目標値を超えている。改善点はあるが、大学・企業等との産学官連携、理数科セミナーや大学研究室体験(スキルスラボ、JSL)等を推進しているところである。

5 生徒指導の充実

登下校・駐輪場指導を継続し、自転車マナーは改善傾向にある。地域からの苦情も減少傾向で、評価の声も聞こえるようになった。また新1年生対象の啓発映像視聴と県警講話によりヘルメット着用率が上昇している。

6 特別活動の活性化

部活動加入率は兼部も含み100%を超える。各部署で県・四国・全国レベルでの活躍があり、部活動は充実している。また、ボランティア活動も盛んである。

7 安全教育・環境教育の推進

津波を想定した体育館からの4～5階への垂直避難は昨年既に実施しており、南海トラフ地震に備え、「自分で判断できる生徒」を育成する方針であること、避難訓練の質を高め、継続的な防災教育の高度化を図っていく。

8 グローバル化に対応した教育の推進

サギノー市短期留学はコロナ禍で一時中断したが、再開して3回目となることや台湾姉妹校とのオンライン交流、多文化・多言語ラボ等を実施するなど、継続しているものに加え、新入生からの修学旅行に海外の選択が加わるため、より国際教育を強化する方針である。

9 特色ある学校づくりの推進

学校HPアクセスは20万件到達の見込み。市高祭来場者1,780名、学校説明会参加者800名超、オープンスクール参加者延べ887名と概ね目標を達成できた。

10 情報教育の推進

DXハイスクール指定に基づき、教員向けにAIや3Dプリンター研修を実施。また生徒用情報端末を更新し、大きな問題なく目標を概ね達成した。

(2) 次年度以降の学校運営について

多田校長が、次年度以降の学校運営について次のとおり説明した。

- * 学区再編を見据え、市内生徒から選ばれる学校となれるよう本校の「特色化・魅力化」を推進していく。
- * 新入生から修学旅行を台湾と国内（北海道）の選択制とすることで、国際理解教育を強化する。
- * 高機能PCの活用、地域の小中学校対象デジタルものづくり教室の準備、来年度の3年生に「データサイエンス」を新設することなど、DXハイスクールの取組を拡充していく。
- * 令和9年度から授業時数配分を見直し、放課後の探究・主体的学習の充実を図っていく。

4 委員からの意見・提言等

【学校評価及び生徒授業自己評価アンケートについて】

- * 予習行動の伸び悩みに対して、塾等での学習方法とも関係している点から、復習を充実させる方向に重点を置くことも選択肢ではないか等の提案があった。また反転授業等「予習を前提とする授業デザイン」の導入の提案や、復習の質を高める指導の必要性も指摘をいただいた。

- *分からないことを教師に質問する項目の低さに対して、質問しやすい雰囲気改善や環境整備の提案をいただいた。
- *3年間全体を総括する「卒業時アンケート」の導入することでより包括的な評価が可能となるのではないかと提案をいただいた。
- *大学で導入が進んでいる デジタルによるオープンバッジ を導入してはどうかとの提案があった。

【学校評価総括評価表及び学校運営全般について】

- *数値目標達成している項目も多く、評価が厳しいのではないかと意見をいただいた。それに対して、本校多田校長が学校評価は数値だけでなく質や内容を重視する方針で評価したことを説明し、理解をいただいた。
- *読書のデジタル化など、図書館への来館目的が変化しており、貸出冊数が伸び悩んでいる。大学での利用の現状が自習・情報検索の場へと変化している状況も踏まえ、図書館を自習・探究拠点化し、Wi-Fi 整備や席配置の工夫等の提案をいただいた。
- *中学校では小学校の授業見学を実施しており、学びの継続性の観点からも、中高相互の授業参観を行い、学びの接続強化をすることへの提案をいただいた。
- *産学官連携について用語や内容への質問をいただいた。それに対して学校側から、それぞれの説明を行った。また理系の探究活動強化には大学との協働が不可欠であることを説明した。大学側からも地域連携の枠で協力する意向であり、教員のマッチングシステムをはじめ、大学連携の拡大（スキルスラボ、JSL 等）を継続させたいとの共通理解を図った。
- *本校理数科が活躍してきた科学オリンピック等に対して、競合校に負けないよう、その競争力を強化するため、大学教員とのマッチング体制整備等を図り、成果の向上を目指すことが確認された。
- *ヘルメット着用率が急向上したことについての質問をいただいた。それに対して、学校側から合格者説明会における県警講話や映像視聴を行ったことが要因ではないかと説明した。交通マナーに関しては、教員の継続的な交通立哨により改善がみられたことを踏まえ、引き続き交通指導の強化や保護者を含めた意識向上、交通安全意識の啓発を継続していくことを説明した。
- *中学校の部活動地域移行と高校部活動の在り方のギャップや、経済格差に対しての懸念等の意見をいただいた。完全移行した自治体例はあるが、高校の部活動は学校の魅力化・特色化に大きく寄与しており、また財政的にも難しいことなどを説明した。
- *津波想定避難訓練についての質問をいただいた。それに対して、学校側から県内で最も津波リスクの高い地域に位置していることも踏まえ、防災教育の質を高

めながら、津波想定防災訓練を継続していくことを説明した。また臨時情報時の休校判断等についての質問もいただいた。それに対しては現在検討中であることを説明した。